

# 平成14年度財団法人国際エメックスセンター事業報告書

## 1 一般事項

### (1) 理事会の開催

#### ア 第7回理事会

開催年月日 平成14年6月6日(木)

開催場所 兵庫県公館 第2会議室

議案等

・議案

議案第1号 平成13年度事業報告に関する件

議案第2号 平成13年度収支決算報告に関する件

議案第3号 評議員の補欠選任に関する件

・報告事項

報告第1号 会長の選任について

報告第2号 監事の選任について

#### イ 第8回理事会

開催年月日 平成15年3月14日(金)

開催場所 兵庫県公館 第2会議室

議案等

・議案

議案第1号 平成14年度事業計画書の変更に関する件

議案第2号 平成14年度収支予算書の変更に関する件

議案第3号 平成15年度事業計画(案)に関する件

議案第4号 平成15年度収支予算(案)に関する件

議案第5号 任期満了に伴う科学・政策委員会委員の選任に関する件

・報告事項

報告第1号 第6回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS2003)について

報告第2号 第7回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS2005)について

### (2) 評議員会の開催

#### ア 第6回評議員会

開催年月日 平成14年6月6日(木)

開催場所 兵庫県公館 第2会議室

議案等

・議案

議案第1号 平成13年度事業報告に関する件

議案第2号 平成13年度収支決算報告に関する件

議案第3号 会長の補欠選任に関する件

議案第4号 監事の補欠選任に関する件

#### イ 第7回評議員会

開催年月日 平成15年3月14日(金)

開催場所 兵庫県公館 第2会議室

議案等

・議案

- 議案第1号 平成14年度事業計画書の変更に関する件
- 議案第2号 平成14年度収支予算書の変更に関する件
- 議案第3号 平成15年度事業計画(案)に関する件
- 議案第4号 平成15年度収支予算(案)に関する件

・報告事項

- 報告第1号 科学・政策委員会委員の選任について
- 報告第2号 第6回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS2003)について
- 報告第3号 第7回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS2005)について

### (3) 第4回科学・政策委員会の開催

開催年月日 平成14年11月21日(木)

開催場所 神戸商工会議所 第3会議室

議題

- 第6回エメックス会議(EMECS2003)について
- 第7回エメックス会議(EMECS2005)について
- 財団法人国際エメックスセンターの平成14年度事業について
  - a 閉鎖性海域環境情報システムの構築
  - b EMECS2001アジアフォーラムフォローアップ
  - c 閉鎖性海域の最適環境修復技術のパッケージ化
  - d WSSD参加報告

## 2 事業の実施

### (1) 閉鎖性海域環境保全推進事業

#### ア 海藻類を用いた沿岸生態系の中・長期モニタリング手法に関する調査(関西電力株委託事業)

沿岸域、特に閉鎖性海域の環境を保全し、良好な環境を創出していくためには、沿岸域生態系の現況を正確に把握し、また中・長期的なモニタリングを継続することにより、環境変化や環境修復などが生態系に及ぼす影響を明らかにする必要がある。しかし、生物相自体を中・長期間モニターする手法は十分ではない。このため、神戸大学内海域機能教育センターと共同で、海藻類を主な対象生物として沿岸域生態系の中・長期モニタリングを行う上での諸問題の検討を行った。

具体的には、国内、海外の沿岸生態系に関わるモニタリング調査事例を収集・解析し、海藻類の植生変化を指標として用いた場合の利点と問題点等を整理した。その結果を踏まえ、モニタリング手法の検討を行い、標準的なモニタリング調査手法について考察を行った。また、大阪湾周辺において実際に海藻類を用いたモニタリング調査を行う上での補助資料を作成した。

#### イ 尼崎21世紀の森構想推進協力

産業構造の変化等により工場跡地等の遊休地化が進む国道43号線以南の尼崎臨海地域において、森と水と人が共生する環境創造のまちをテーマとした新たなまちづくりの方向として、兵庫県が平成14年3月に「尼崎21世紀の森構想」を策定した。

この「尼崎21世紀の森構想」の推進について兵庫県等へ協力するため、「尼崎海域における実践環境教育プログラム」に地元市民等を受け入れ、陸域と海域での自然の回復の

必要性や市民の参画の必要性等についてプログラムを通じて学習するとともに、尼崎21世紀の森フォーラムでの活動報告等を行った。

#### 尼崎21世紀の森フォーラムでの報告

開催年月日 平成15年3月21日

開催場所 尼崎市総合文化センター

主催 尼崎21世紀の森づくり協議会、兵庫県、尼崎市

報告内容 尼崎海域における実践環境教育プログラムの実施状況

#### 尼崎21世紀の森連絡調整会議への参加

- ・尼崎21世紀の森づくりの推進に向けた行政機関を主とした関係機関の連絡調整会議として設置された「尼崎21世紀の森連絡調整会議」に参加し、当センターが尼崎港で実施している「閉鎖性海域における最適環境修復創造技術のパッケージ化プロジェクト」等について報告を行った。

#### ウ 臨海部における環境回復・創造方策に関する調査・研究

臨海部は、古くから生活活動や生産活動の場として様々な利用がされてきた。この結果、水質の悪化、生物の生息環境等の生態系の変化、自然景観の変化、海とのふれあいの場や漁場の減少等多岐にわたる環境変化をもたらすこととなった。

環境の保全については、水質改善等公害規制等を中心としたものから、生物多様性の確保、健全な水循環の回復、豊かな自然とのふれあいの場の確保など、環境創造を目指したものに变化してきた。また、良好な環境を次世代に引き継ぐためにも、環境の回復・創造が強く望まれている。

このような観点から、閉鎖性海域における環境回復・創造方策について、神戸大学内海地域機能教育研究センター、大阪府立大学、徳島大学と共同で、臨海部における環境回復・創造方策の最新情報収集に努めるとともに、ワカメ等海藻類の増養殖と藻体取り上げによる水質改善と生物多様性の回復実験等を実施した。実施した主な内容は次のとおり。

実験海域における海藻類の効率的育成手法の検討

海藻類の培養による効率的な育苗管理の検討

増養殖し回収した海藻類の肥料等の利用方法の検討

石積み閉鎖性干潟による効率的な環境修復技術の維持管理手法の検討

エコシステム護岸と既存護岸の付着生物相比較による生物多様性及び物質循環に関する評価

#### エ 環境技術開発等推進事業（実用化研究開発課題） - 閉鎖性海域における最適環境修復創造技術のパッケージ化プロジェクト - （環境省総合環境政策局助成事業）

沿岸域における代表的な環境修復技術として、人工干潟、浅場、藻場の造成、底泥の浚渫、覆砂、礫間接触浄化や生物濾過等が挙げられる。これらの要素技術については、一定の研究・開発が進められ、実用化が図られている。しかしながら、実海域において環境修復を進めるためには、これらの技術をどのように組み合わせるかが課題となっている。このため、要素技術の実用化研究開発を行うとともに、尼崎港域を実証試験海域として、その効果的な環境修復と他の閉鎖性海域へ応用可能な環境修復技術のパッケージ化のプロジェクト（以下「プロジェクト」という。）を推進した。

具体的には、尼崎港において平成13年度に設置した人工干潟、石積み閉鎖性干潟、浮体式藻場（筏）、エコシステム護岸を用いた各種の実験を行い、水質・底質や生物等のモニタリングを実施した。また、水理模型を用いた流況制御実験やバイオマス利用実験等も併せて実施した。これらにより要素技術の機能を明らかにするとともに、それらの最適な組み合わせ（ベストミックス）手法の検討等を行った。

平成14年度「閉鎖性海域における最適環境修復技術のパッケージ化」プロジェクト推進委員会

プロジェクト推進委員会委員等

・委員

委員長	上嶋 英機	独立行政法人産業技術総合研究所産官学連携部門研究コーディネーター、海洋資源環境研究部門総括研究員
委員	石川 潤一郎	(財)国際エメックスセンター参事兼企画調査課長
委員	井田 徹	(株)神戸製鋼所技術開発本部化学環境研究所環境技術研究室主任研究員
委員	大塚 耕司	大阪府立大学大学院工学研究科海洋システム工学分野助教授
委員	川井 浩史	神戸大学内海域機能教育研究センター教授
委員	上月 康則	徳島大学大学院工学研究科エコシステム工学専攻助教授
委員	木幡 邦男	独立行政法人国立環境研究所海域環境管理研究チーム総合研究官
委員	谷本 高敏	兵庫県立健康環境科学研究所水質環境部長
委員	辻 博和	(株)大林組 東京本社土木技術本部環境技術部技術部長
委員	中西 敬	総合科学(株) 海域環境部長
委員	中村 由行	独立行政法人港湾空港技術研究所海洋・水工部沿岸生態研究室長
委員	村上 和男	独立行政法人産業技術総合研究所中国センター物理環境修復創造研究グループ長

・オブザーバー

環境省環境管理局水環境部閉鎖性海域対策室長補佐  
国土交通省近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所長  
兵庫県県民生活部環境局水質課長  
兵庫県県土整備部土木局港湾課長  
兵庫県阪神南県民局県民生活部長兼参事(環境担当)  
兵庫県阪神南県民局県土整備部尼崎土木事務所尼崎港管理室長  
兵庫県県土整備部企画調整局課長(21世紀の森担当)  
財団法人兵庫県環境クリエイトセンター事務局長  
尼崎市新都市開発室臨海担当部長  
尼崎市美化環境局環境対策部長  
尼崎市土木局河川緑地部長

プロジェクト推進委員会の開催

a 第1回委員会

開催年月日	平成14年6月25日(火)
開催場所	国際健康開発センタービル国際ホールA・B
検討内容	・平成14年度プロジェクト推進委員会設置要綱について ・平成13年度報告書について ・平成14年度計画・進捗状況及び予算について ・その他

b 第2回委員会

開催年月日 平成14年10月21日(月)

開催場所 国際健康開発センタービル国際ホールA・B  
検討内容 ・各ワーキンググループの進捗状況について  
・平成14年度成果のとりまとめ検討について  
・その他

c 第3回委員会

開催年月日 平成14年11月22日(金)  
開催場所 国際健康開発センタービル会議室2  
検討内容 ・平成14年度成果のとりまとめ検討について  
・全体進捗状況について  
・その他

d 第4回委員会

開催年月日 平成15年2月13日(木)  
開催場所 国際健康開発センタービル会議室2  
検討内容 ・進捗状況について  
・平成14年度成果とりまとめ概要と環境省終了前評価資料案  
について  
・今年度報告書の構成と分担案について  
・来年度調査検討案について  
・その他

e 第5回委員会

開催年月日 平成15年3月17日(月)  
開催場所 国際健康開発センタービル会議室2  
検討内容 ・全体進捗状況について  
・今年度報告書案について  
・実験調査データ集の作成について  
・その他

オ 油処理剤等環境影響に関する調査(環境省地球環境局委託事業)

「油及び有害液体物質による海洋の汚染の防止のために使用される薬剤の基準」については、「海洋汚染防止及び海上災害の防止に関する法律」に基づき、国土交通省令・環境省令により急性毒性等に関する基準が設けられている。この基準に合致した約70種類の油処理剤並びに油ゲル化剤について、型式認定が行われている。

大規模な油流出事故等においては、迅速な回収処理作業が被害の拡大を阻止する上で重要となり、油処理剤が大きな役割を果たすことが想定されるが、環境への影響に関する知見が十分でない。

このため、学識経験者による調査検討委員会を設置し、既存の油処理剤及び油ゲル化剤の海洋環境への影響について調査・検討を行うとともに、自治体等の関係者が参考となるよう油処理剤等に関する資料集としてとりまとめを行った。

平成14年度油処理剤等環境影響に関する調査検討委員会

調査検討委員会委員等

・委員

座長	岡田 光正	広島大学大学院工学研究科物質化学システム専攻教授
委員	黒崎 一己	海上保安試験研究センター化学分析課課長
委員	小倉 秀	海上災害防止センター調査研究室長兼防災訓練所所長
委員	越川 篤志	石油連盟油濁対策部次長

委員	小松 輝久	東京大学海洋研究所助教授
委員	小山 次朗	鹿児島大学水産学部海洋資源環境教育研究センター教授
委員	牧 秀明	独立行政法人国立環境研究所流域圏環境管理研究プロジェクト海域環境管理研究チーム研究員
委員	若林 明子	淑徳大学国際コミュニケーション学部教授

・オブザーバー

国土交通省総合政策局環境・海洋課海洋室  
 国土交通省海事局検査測度課業務第一係  
 海上保安庁警備救難部環境防災課企画係  
 水産庁資源生産推進部漁場資源課漁場保全指導班  
 流出油処理剤懇話会  
 油ゲル化剤懇話会  
 財団法人漁場油濁被害救済基金  
 全国漁業協同組合連合会

調査検討委員会の開催

a 第1回委員会

開催年月日 平成14年10月28日(月)  
 開催場所 法曹会館 寿の間  
 検討内容 ・検討会の構成と座長の選出について  
 ・検討経緯とスケジュールについて  
 ・ガイドラインの編集方針について  
 ・その他

b 第2回委員会

開催年月日 平成15年2月14日(金)  
 開催場所 東京国際フォーラム G408会議室  
 検討内容 ・平成14年度調査報告書(案)について  
 ・その他

c 第3回委員会

開催年月日 平成15年3月28日(金)  
 開催場所 航空会館 801会議室  
 検討内容 ・平成14年度調査報告書(案)について  
 ・その他

カ 第6回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS 2003)開催準備

第6回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS 2003)を2003年11月にタイ王国で開催するため、タイに EMECS2003 国際組織委員会及びその事務局が設置された。この国際組織委員会を支援するとともに、国際組織委員会へ出席した。また、この国際組織委員会に設けられた会議の運営全般を協議する運営部会及び会議プログラムや応募論文の審査等を行うプログラム部会への出席を行った。さらに、EMECS2003 事務局が作成した第1回及び第2回アナウンスメントをエメックス関係者に送付するなど会議開催の周知を図った。

第6回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS2003)の概要

テーマ 自然と人との持続的で友好的な共生のための包括的な責任ある沿岸保全  
 開催期間 2003年11月18日(火)~21日(金)  
 開催場所 タイ王国バンコク市 モンティエン・リバーサイド・ホテル

日 程

月日	午 前	午 後	夕 刻
11月 18日 (火)	開会セッション (全体会議) 開会式 基調講演	特別セッション - タイ湾 ポスターセッション	歓迎パーティ
11月 19日 (水)	アジア太平洋フォーラム 技術セッション	技術セッション	
11月 20日 (木)	NGOフォーラム 技術セッション	技術セッション	
11月 21日 (金)	技術セッション	閉会セッション(全体会議) バンコク・プロトコール 賞状贈呈式 次回会議発表 閉会式	さよなら パーティ

EMECS2003 国際組織委員会委員

委員長	プロドプラソプ・スラスワディ	タイ王国天然資源・環境省長官
委員	茅 陽一	国際エメックスセンター会長
委員	チュア・ティア・エン	GEF/UNDP/IMO 東アジア海域環境管理パートナーシップ地域計画 (PEMSEA)局長
委員	ヒュー・カークマン	UNEP EAS / RCU コーディネーター
委員	アサシット・ベヤジバ	タイ王立研究所所長
委員	タッチャイ・スミトラ	チュラロンコン大学学長
委員	ピロチ・イムピタク	カセサート大学学長
委員	ジーン・ルイス・アマンド	アジア工科大学院学長
委員	チンチャイ・ロハワタナクル	チャルン・ポーカパン副社長兼最高経営責任者
委員	アピポーン・パサワット	サイアムセメント副社長
委員	ピチャイ・タラナイエスダ	ユノカル・タイランド政府業務部門取締役
委員	ピアムサック・メナスヴェータ	チュラロンコン大学環境研究所長

事務局長

EMECS2003 国際組織委員会の開催状況

a 国際組織委員会

- 開催年月日 2002年7月22日(土)  
 開催場所 タイ王国バンコク市 タイ国森林省  
 検討事項 ・国際組織委員会、同委員会運営部会及びプログラム部会の設置  
 ・EMECS2003 会議開催計画  
 ・予算案  
 ・その他

b プログラム部会

- 開催年月日 2002年9月30日(月)  
 開催場所 タイ王国バンコク市 モンティエン・リバーサイド・ホテル

- 検討事項
- ・ EMECS2003 会議会場の検討
  - ・ 会議日程の決定
  - ・ 論文等募集方法
  - ・ 特別セッションの役割分担
  - ・ テクニカルツアー案
  - ・ 今後の予定
  - ・ その他

c 運営部会

- 開催年月日 2002年9月30日(月)  
 開催場所 タイ王国バンコク市 モンティエン・リバーサイド・ホテル  
 検討事項
- ・ 資金計画
  - ・ 参加者数見込み
  - ・ その他

キ 第5回世界閉鎖性海域環境保全会議論文集等発行事業

第5回世界閉鎖性海域環境保全会議において発表され提出のあった論文について、学術論文集として発行するため、「学術論文集出版のための編集委員会」における審査等所要の作業を行った。

ク 第5回世界閉鎖性海域環境保全会議フォローアップ事業

EMECS 2001 において採択された神戸・淡路宣言で提案された課題及び得られた成果を持続的に発展させていくため、そのフォローアップとして次の事業を推進した。

閉鎖性海域における環境対策やモニタリング等について、兵庫県と共同してブラジル・パラナ州との環境協力を推進するため、初年度である平成14年度は、兵庫県の派遣とともにセンター職員を現地に派遣し調査等を行った。

経緯 平成12年の兵庫県・パラナ州友好提携30周年記念共同声明において、環境保護のための技術・情報の交流を促進することとされた。平成13年の第5回世界閉鎖性海域環境保全会議において、今後エメックスセンターとして、ブラジルにおける河口域環境への支援等を実施していくこととした。また、平成14年の国際連携兵庫会議環境分科会において、今後の環境協力について、ブラジル側から主としてパラナグワ湾等の沿岸域の環境保全と持続的開発に関する支援を要望された。

派遣期間 平成14年12月13日から平成14年12月20日まで

派遣目的 兵庫県とともに、パラナ州の沿岸域の状況を把握するとともに、今後の進め方について協議する。

派遣先 ブラジル連邦パラナ州

調査内容

- ・ パラナ州の沿岸域管理計画についての聴き取り調査
- ・ パラナグワ湾等沿岸域の状況視察

アジアフォーラムで提案されたアジア沿岸域の総合アセスメントの実現に向けて、アジア太平洋沿岸域環境白書作成のための運営委員会(Steering Committee)を設置し、「デザインワークショップ」を兼ねて第1回委員会を開催した。

アジア太平洋沿岸域環境白書作成のための運営委員会

a 運営委員

座長 三村 信夫 茨城大学広域水圏環境科学教育センター教授



委員	柳 哲雄	九州大学応用力学研究所教授
委員	斉藤 文紀	独立行政法人産業技術総合研究所海洋資源環境研究部門沿岸環境保全研究グループ
委員	関口 秀夫	三重大学生物資源学部教授
委員	平井 幸弘	専修大学文学部人文学部環境地理学教授
委員	山村 尊房	アジア太平洋地球変動研究ネットワーク(APN)センター長
委員	Kwangwoo Cho	韓国環境研究所
委員	Porfirio M. Alino	フィリピン大学海洋研究所副所長
委員	Sanit Aksornkoae	タイ・カセサート大学森林学部教授

b 第1回委員会の開催

開催年月日 平成15年3月18日(火)

開催場所 国際健康開発センタービル会議室2

内容 ・プロジェクトに関連した委員(3名)によるプレゼンテーション  
 ・アジア太平洋沿岸域環境白書の目次項目についての検討  
 ・アジア太平洋沿岸域環境白書主執筆者についての検討  
 ・今後のスケジュールについて  
 ・その他

NGOフォーラムで得られた成果を将来に引き継ぎ、発展させていくために、閉鎖性海域において環境保全活動を行う住民団体、NGOなどの国内的、国際的な交流の推進及び行政・企業・研究者らとの連携を図ることを目的として、広範なネットワークとパートナーシップを構築するフォーラムを開催した。フォーラムは、代表的な閉鎖性海域である瀬戸内海、東京湾、伊勢湾の3地域で開催するとともに、その開催予告や内容を記載したニュースレターを発行した。(環境事業団助成事業)

フォーラムの開催

a 瀬戸内海

開催年月日 平成15年1月19日(日)

開催場所 岡山市 岡山コンベンションセンター会議室B

テーマ みんなで考えよう!瀬戸内の過去・現在・未来

瀬戸内海環境保全特別措置法と瀬戸内海の現状と将来展望

参加者数 約55名

内容

・意見発表

コーディネーター 松田 治 広島大学大学院生物圏科学研究科教授

発表題名及び発表者

- ・「瀬戸内海の環境保全活動 今と昔」  
小林悦夫 財団法人ひょうご環境創造協会副理事長、前兵庫県環境局長
- ・「取り戻そう青い海、緑の島々 改正しよう瀬戸内法 里海の再生を願って」  
山本安民 環瀬戸内海会議岡山代表幹事
- ・「みずしま財団の課題と展望」  
太田映知 財団法人水島地域環境再生財団事務局長・理事
- ・「おかやまコープの概要」  
岡本正道 生活協同組合おかやまコープ環境部
- ・「海浜の保全と環境アセスメント - 瀬戸内法適用自治体の『アセス条例』の検討 - 」  
富井利安 広島大学総合科学部教授

- ・「備讃瀬戸およびその周辺海域における海況の特性と環境問題」  
奥田節夫 京都大学名誉教授

- ・円卓討論
- ・資料展示

b 東京湾

開催年月日 平成15年2月1日(土)  
開催場所 東京都港区 東京水産大学資源育成棟100A講義室  
テーマ EMECS FORUM in 東京湾「東京湾・子どもたちについて耐えたいこと」  
参加者数 約100名

内 容

総合司会 小島 あずさ クリーンアップ全国事務局代表  
工藤 孝浩 神奈川県水産総合研究所主任研究員

- ・趣旨説明 清野聡子 東京大学大学院総合文化研究科助手
- ・講演

- ・「荒川の自然再生と市民活動」  
佐藤正兵 荒川クリーンエイド・フォーラム事務局長
- ・「暮らしと自然が交差する海 『里海・三番瀬』」  
長谷川孝一 ama 水辺の自然文化研究所 代表
- ・「おびつ川河口干潟の学習」  
磯貝幸子 千葉県木更津市立金田小学校 教諭  
今井常夫 千葉県富津市立天神山小学校 教諭
- ・「『磯遊び研究会』について」  
田中克哲 磯遊び研究会 事務局
- ・「南房総から海岸浴を提唱しています」  
三瓶雅延 沖ノ島サンゴを見守る会 代表
- ・「ダイバーから見た東京湾の生きもの」  
横浜大岡川ワカメの生活史と生きものたちからの提案」  
三富龍一 水辺を記録する会 生物担当
- ・「子どもたちに伝えたい、川崎の海の記憶」  
安元 順 かわさき・海の市民会議 事務局次長
- ・「新しい海辺づくりに向けて」  
鈴木 覚 海辺づくり研究会 理事
- ・パネルディスカッション「東京湾・子どもたちに伝えたいこと」

c 伊勢湾

開催年月日 平成15年2月11日(火)  
開催場所 名古屋市西区 名進研ビル会議室  
テーマ ゆたかな伊勢湾を取り戻したい人々の交流会  
参加者数 約50名

内 容

- ・基調報告 (1)「ラムサール条約と伊勢湾」  
辻 淳夫 日本湿地ネットワーク(藤前干潟を守る会)代表
- (2)「アメリカの協働管理の取り組みを調査して」  
高山 進 三重大学生物資源学部教授
- ・参加団体自己紹介
- ・参加者全員討論
- 司会 高山 進 三重大学生物資源学部教授
- まとめ 磯部 作 日本福祉大学社会福祉学部教授

#### 参加団体又は個人

志摩半島野生生物研究会、藤前干潟を守る会、うみがめいるかまもり隊、西條八束、寺井久慈、西川輝昭、愛知県漁業協同組合連合会、三重県漁業協同組合連合会、川の会・名張、六条潟と三河湾を守る会、アジアの浅瀬と干潟を守る会、汐川干潟を守る会、矢田・庄内川をきれいにする会、南知多ビーチランド・長谷川修平、海を漁民の手にとりもどす会、日本野鳥の会三重県支部、高松干潟を守ろう会、SOS、長良川生物調査団、かめっぶり、村上哲生、40年来のヨットマン・高橋正、住民に親しまれる名古屋港を考える会、森・川・海を結ぶ会・中部、ガイア造形研究所、愛知県保険医協会公害対策部、三重大学学生、愛知県企画振興部企画課、愛知県環境部自然環境課、三重県総合企画局企画・総合行政チーム、三重県農林水産商工部、名古屋市総務局企画部企画課、愛知県水産試験場、名古屋港管理組合、国土交通省中部地方整備局名古屋港湾空港技術調査事務所、環境省中部地区環境対策調査官事務所、環境省自然環境局中部地区自然保護事務所

EMECS 2001 の成果を他の国際会議の場を通じてアピールし、国際的なネットワークのさらなる広がり構築を図るため、南アフリカ共和国で開催された「持続可能な開発に関する世界首脳会議WSSD（ヨハネスブルグサミット）」関連イベント等に、センター職員を派遣し、国際エメックスセンターの取り組みについて展示及びアピールするとともに、関連行事に参加し関係者等と交流を行った。

#### ・WSSD国際パビリオンでのポスター展示及びアピール

期 間 平成14年8月28日から9月5日まで

展示場所 南アフリカ共和国ウブントゥ村

WSSD公式展示場国際パビリオン「テンシル1」

テ ー マ 「閉鎖性海域の環境保全 瀬戸内海における環境の保全と回復の経験移転」

#### ケ 閉鎖性海域環境保全活動支援事業

閉鎖性海域の環境保全と適正利用を目的とする学術的な会議等に対して、他の関連機関との関係を築くとともに、会議等の成果をセンターの活動に反映させるため、助成を行った。なお、当センターから「閉鎖性海域における最適環境修復技術のパッケージ化」についてポスター発表し、最優秀賞を受賞した。

#### ・平成14年度に助成した事業

対象団体名 瀬戸内海研究会議

対象事業名 瀬戸内海研究フォーラム in わかやま

開催年月日 平成14年8月29日から平成14年8月30日まで

開催場所 和歌山市 アバローム紀の国

テ ー マ 森林と海 連鎖への回帰

内 容

セッション報告

a 第1セッション 和歌山の海の生態系を支える陸からと海からの栄養供給

b 第2セッション リモートセンシングの利用と海域生態系

c 第3セッション 海からみた熊野 紀伊半島の歴史・文化

d 第4セッション 森林と海

ポスター発表

コ エメックス国際セミナー「沿岸域に係る環境情報の共有化と環境管理制度の将来展望」の開催

「沿岸域に係る環境情報の共有化と環境管理制度の将来展望」をテーマに、ヨーロッパ、地中海、アメリカ等において沿岸域管理について活躍しているセンターの科学・政策委員や日本の環境法学者が参加したエメックス国際セミナーを、神戸で開催された「テクノオーション 2002」のスペシャルセッションとして開催した。市民、NGO、政策担当者が沿岸域の環境保全と環境の修復・創造の必要性への認識を深めるとともに、関係者相互の参加と連携を図り、適切な沿岸域管理を推進するためには、沿岸域に係る情報の収集・整理を行い、その結果を提供・公開していく必要があるとの認識のもと、セミナーでは、環境情報の共有化を核としながらあるべき環境管理制度とその将来展望について、それぞれの分野、地域における取り組みに関する最新情報の紹介が行われ、総合討論では、講演者に会場参加者も加えて、今後の取組みについて活発な意見交換がなされた。

開催年月日 平成14年11月20日(水)

開催場所 神戸国際展示場2号館2A会議室

参加者数 約100名

内容

コーディネーター 松田 治 広島大学大学院生物圏科学研究科教授

プログラム

報告

- a UNEPにおける地域海行動計画の取り組みについて  
イヴィツァ・トゥルンビッチ 国連環境計画優先行動計画/PAP所長
- b 地中海における沿岸域管理制度の現状と将来展望  
エルダ・ル・オーザン 中東工科大学教授、MEDCOAST会長
- c 米国ワシントン州ピュージェット湾管理における環境情報の役割  
デュアン・ファガーグレン 米国ワシントン州ピュージェット湾管理機構議長代理
- d 自然生態系の保全と環境情報のあり方  
荏原 明則 神戸学院大学法学部教授

総合討論

(2) 情報収集整備活用事業

ア 閉鎖性海域環境情報システムの構築(環境省水環境部請負事業)

閉鎖性海域の環境保全に関し、主導的役割を果たしてきた我が国が、関係各国と連携をとりつつ閉鎖性海域の環境情報に係る国際的な情報ネットワークを構築し、閉鎖性海域に関する各研究分野の研究成果、水質等の環境データ、社会経済データ等の情報のデータベースを整備し、インターネットを通じて、研究者、行政関係者等が活用できるシステムの構築を図るため、「平成14年度閉鎖性海域環境情報整備等検討委員会」を設置し、内容検討を行うとともに、システム構築を図り試験的運用を開始した。

平成14年度閉鎖性海域環境情報整備等検討委員会

検討委員会委員

座長 三村 信夫 茨城大学広域水圏環境科学教育センター教授

委員 高山 進 三重大学生物資源学部教授

委員 名執 芳博 財団法人地球環境戦略研究所(IGES)長期展望・政策統合プロジェクト プロジェクトリーダー

委員 山村 尊房 アジア太平洋地球変動研究ネットワーク(APN)センター長

委員 柳 哲雄 九州大学応用力学研究所教授

## 検討委員会の開催

### a 第1回委員会

開催年月日 平成14年10月10日(木)  
開催場所 航空会館 602会議室  
検討内容 ・委員の構成と委員長の選出について  
・閉鎖性海域環境情報システム構築と推進方策について  
・アジアフォーラムフォローアップ事業について  
・その他

### b 第2回委員会

開催年月日 平成14年12月17日(火)  
開催場所 航空会館 705会議室  
検討内容 ・閉鎖性海域環境情報整備の推進方策について  
(作業の進捗状況報告)  
・その他

### c 第3回委員会

開催年月日 平成15年2月18日(水)  
開催場所 航空会館 705会議室  
検討内容 ・閉鎖性海域環境情報整備の推進方策について  
(仮ホームページの接続状況報告)  
・その他

## イ 世界の閉鎖性海域の環境に関する情報発信事業(ネットワーク機器の全面更新等) (総務省-寄附金付年賀はがきの寄附金-助成事業)

現在のネットワーク社会の要請に対応して、閉鎖性海域の環境に関する情報発信をより高速大容量化するとともに、セキュリティを高めるため、センターが保有するインターネットサーバー等の情報通信機器を全面更新した。併せて現在のホームページについても更新し、利用者にとってより見やすく使い易いものとした。

## ウ 情報収集・提供システムの運営

世界の閉鎖性海域の環境の保全と適正な利用に関する情報を収集、加工するとともに、インターネットを通じて情報の提供・交流を行うシステムの運用、管理の充実を図った。

## エ 「誰でも参加-海のネット会議」の管理・運用

平成12年度に環境事業団地球環境基金の助成を受けて構築した「誰でも参加-海のネット会議」の管理・運用を行った。

このネット会議は、(財)国際エメックスセンターのホームページを活用し、閉鎖性海域の環境保全・創造のため、提供された話題等に関して、市民、NGO、研究者、政策担当者など誰もが参加でき、直接に意見交換、情報交換を可能にするため構築されたものである。このネット会議を通じて、多様なセクターの関係者が、今後の海の環境保全・創造の取り組みなどについてネット上で意見交換等がなされた。

## オ エメックスニュースの発行

閉鎖性海域に関する情報交換を促進するため、投稿論文、第6回エメックス会議の準備状況、会議開催結果、閉鎖性海域環境保全団体の紹介、関連国際会議開催情報等を掲載した機関紙「エメックスニュース」を発行した。

また、電子メールによる配信を試行した。

#### 第21号

- a 茅陽一新会長就任
- b 第5回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS2001)報告
- c 第6回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS2003)の準備状況
- d ヨハネスブルグサミットに参加して
- e タイ王国・個別専門家派遣事業 閉鎖性海域環境保全(国民参加型)に係る技術指導報告
- f 閉鎖性海域における最適環境修復技術のパッケージ化プロジェクト
- g ベネチアとベネチアのラグーン：ある閉鎖性海域の危機

#### 第22号

- a EMECS2003(第6回 EMECS 会議)
- b エメックス国際セミナー(TECHNO-OCEAN2002 スペシャルセッション)開催報告
- c ブラジル連邦パラナ州の沿岸域視察について
- d 瀬戸内海海洋環境体験学習事業
- e 尼崎海域における実践環境教育プログラムの実施について
- f インドネシア・プリギ湾における閉鎖性海域管理の重要な要素である人工サンゴ礁

### (3) 普及啓発・人材育成事業

#### ア 海洋環境体験学習セミナーの開催(日本財団助成事業)

平成13年度に引き続き、瀬戸内海等の閉鎖性海域の中で、環境質の高い水域と劣化の著しい水域、歴史・風土性を感じることでできる水域、希少な生物の保護活動、環境保全活動の先進地を実際に訪ね、生態系工学研究会の協力を得て当地で体験学習を行った。体験学習会では、水質の測定手法、生物観察方法、生態系の評価方法など当水域環境に適した環境評価方法を市民に指導した。

##### 第5回海洋環境体験学習セミナー

開催年月日 平成14年6月23日(日)

開催場所 ・洲本市由良生石の自然海岸、  
・神戸大学内海域機能教育研究センター(津名郡淡路町)

テーマ 淡路島で海の中の森(藻場)を見て、海藻のしおりを作ろう

参加者 小学生、一般 31名

コーディネーター 川井浩史 神戸大学内海域機能教育研究センター教授

##### 第6回海洋環境体験学習セミナー

開催年月日 平成14年8月8日(木)

開催場所 大阪湾東海岸

テーマ 残された海の自然と悪化した環境を体験し、ライフスタイルを見直す  
『大阪湾海辺の探検隊 - 君は大阪湾を知っているかい? - 』

参加者 小学生、一般 37名

コーディネーター 中西 敬 総合科学(株)海域環境部長

##### 第7回海洋環境体験学習セミナー

開催年月日 平成14年8月19日(月)

開催場所 岡山県立水産試験場、牛窓港 前島

テーマ 牛窓のアマモ場を眺め、離れ島で潮干狩りを楽しもう!

参加者 小学生、一般 40名  
コーディネーター 辻本剛三 神戸市立高等専門学校都市工学科教授

#### 第8回海洋環境体験学習セミナー

開催年月日 平成14年8月24日(土)  
開催場所 大阪湾沖合、大阪南港野鳥園  
テーマ 干潟ってどんなところ? いろんな生物の集まる浅場の秘密を知ろう!  
参加者 小学生、一般 24名  
コーディネーター 重松孝昌 大阪市立大学大学院工学研究科環境水域工学分野講師

#### 第9回海洋環境体験学習セミナー

開催年月日 平成14年10月12日(土)  
開催場所 岡山県笠岡市立カブトガニ博物館  
テーマ 生きている化石カブトガニの観察と海水浄化船の見学!  
参加者 小・中学生、一般 50名  
コーディネーター 上月康則 徳島大学大学院工学研究科エコシステム工学専攻助教授

#### 第10回海洋環境体験学習セミナー

開催年月日 平成14年12月21日(土)  
開催場所 神戸市立須磨海浜水族園  
テーマ 水族館の秘密を知ろう!  
水族館の管理技術を学び、海の環境について考える体験学習  
参加者 小・中学生、一般 46名  
コーディネーター 大塚耕司 大阪府立大学大学院工学研究科海洋システム工学専攻助教授

#### イ 尼崎海域における実践環境教育プログラムの推進(日本財団助成事業)

環境技術開発等推進事業(実用化研究開発課題) - 閉鎖性海域における最適環境修復創造技術のパッケージ化プロジェクト - で造成した人工干潟・人工磯等を活用して、阪神間の小中学生等を対象にした環境教育プログラムを、本プロジェクトに関わる我が国第一線の研究者をコアにした実践的な環境教育活動として実施した。実施にあたっては、環境教育DVD「きれいな海をとりもどそう」ほか環境教育資材の整備を行った。また、プログラムでは、「海を知る」、「海を見る」、「海を調べる」という視点のもと、海の浄化能力などの機能、大阪湾・尼崎港の現状、実証実験の目的と状況、海の水質調査、海の生物調査、日常生活と海の汚染との関係などを学ぶとともに、尼崎港はじめ海の環境を改善するため何をすれば良いかなどを考える機会とした。

実施時期 平成14年9月から平成15年3月まで  
実施場所 尼崎港内の実証実験施設及び武庫川下流浄化センター会議室  
実施回数 15回  
参加者数 276名  
主なプログラム内容

- ・環境教育DVD「きれいな海をとりもどそう」の放映
- ・海水中のプランクトンの観察
- ・アサリを使った海水浄化実験
- ・水質測定
- ・実証試験施設の人工干潟等での生物観察
- ・パネル展示
- ・その他

ウ 閉鎖性海域の水環境管理技術研修（国際協力事業団（JICA）委託事業）

我が国の閉鎖性海域の環境保全施策実施の経験を基に、開発途上国の中堅行政官を対象とした「閉鎖性海域水環境管理技術研修」を実施した。

研修の目的

閉鎖性海域及び沿岸域の環境管理に従事する開発途上国の中堅行政担当官等を対象に、我が国の水質保全など閉鎖性海域等の環境管理に関する経験とその技術の移転を通じ、各国行政担当官等のレベルアップを図り、今後各国において閉鎖性海域等の環境管理分野における指導的役割を担う人材の育成を目的とした。

研修期間

平成14年9月9日から11月23日まで（ただし、最初の3週間は日本語研修等）

研修リーダー

京都大学大学院工学研究科環境工学専攻 津野 洋教授

研修生

インドネシア、スリ・ランカ、タイ、フィリピン、サウディ・アラビア、バハレーン、チリの7カ国、計7名

主な研修場所

JICA兵庫国際センター

研修の内容

a 講義

環境管理、水質に係る基礎理論の講義

b 実習

排水処理・分析技術等の実習

c 現地見学

環境に関する研究所や漁業関係施設、排水処理施設、環境教育現場等の見学

研修生一覧

	氏名	国名	性	年齢	所属・職名
1	モハメド・アハメド・ハッサン・アハメド・アラブー	バハレーン	男	32歳	住宅農業省水産局 海洋生物技術者
2	パウラ・クシメナ・モレノ・シルバ	チリ	女	30歳	チリ経済省漁業局 環境アドバイザー
3	フレディカ・マルガリータ・ウォインタナ	インドネシア	女	33歳	インドネシア環境省環境保全局 海洋沿岸生態系課 海洋沿岸環境オフィサー
4	フェルディナンド・ムラ・アルキュラー	フィリピン	男	32歳	カガヤンデオロ市環境天然資源事務所 環境管理スペシャリスト
5	キュセイ・ブハリカー	サウディ・アラビア	男	37歳	サウディ・アラビア気象環境庁 環境オブザーバー
6	サマンサ・クスム・マレ・パシラナ	スリ・ランカ	女	36歳	スリ・ランカ環境天然資源省中央 環境公社 シニア環境オフィサー
7	スーンサリー・ピロム	タイ	女	34歳	タイ運輸通信省港湾局技術課海洋 環境係 環境オフィサー

エ 環境イベントへの出展等

エメックス活動の普及啓発と閉鎖性海域の環境情報の発信のため、環境イベント等にパ



ネル等の出展を行い、特に尼崎港で実証研究を行っている環境修復技術の紹介や閉鎖性海域の環境の保全と回復の必要性等を参加者に訴えた。

#### テクノオーシャン2002

海洋関係の科学技術と情報の交流を目的として神戸市において「テクノオーシャン2002」が開催され、この学術研究団体展に出展を行った。

開催年月日 平成14年11月20日から22日まで

開催場所 神戸市 神戸国際展示場2号館

#### フロンティア・イノベーションフェア

先端技術分野における技術交流等を目的とした「フロンティア・イノベーションフェア」が開催され、出展等を行った。

開催年月日 平成14年11月20日から21日まで

開催場所 神戸市 神戸国際展示場1号館

#### 海洋環境産業見本市2002

海洋と環境、産業が融合した海洋環境産業の創出をめざし、産学官の研究開発状況や関連する技術等を紹介する「海洋環境産業見本市2002」が開催され、出展等を行った。

開催年月日 平成14年11月26日から27日まで

開催場所 広島県呉市 バブコック日立体育館

#### 第3回世界水フォーラム「水のEXPO」

「水の世紀」といわれる21世紀を迎え、世界の水問題の解決をめざした「第3回世界水フォーラム」が京都・大阪等で平成15年3月開催された。この一環として、各国政府、国際機関、政府・官公庁、自治体、研究機関・大学、企業、NGO、一般市民など、水問題にかかわる人たちが一堂に会し、水に関する情報発信、情報や知恵を共有することを目的とした「水のEXPO」が開催され、出展等を行った。

開催年月日 平成15年3月18日から22日まで

開催場所 大阪市 インテックス大阪